

ご 挨拶

早稲田大学産業経営研究所 所長 武 井 寿



ご来場の皆様、ようこそおいでいただきました。また、講師の先生方、大変にお忙しい時間をご調整いただきご来校いただきまして、心より御礼を申し上げます。

早稲田大学産業経営研究所は1974年の設立で、商学部の先生方並びにその関係の先生方を中心に運営されています研究所であります。本日のコーディネータの土田先生も私も商学部に籍を置いております者ですが、産研は、経済、経営、産業、そして社会という領域について幅広い研究をしており、このようなフォーラムを通じてその研究成果を公表するという務めを持っております。春にはアカデミック・フォーラムという形で催しを行い、秋のこの時期には産研フォーラムという今日のような催しを毎年開催していきまして、74に今日の回数を足していただくと今年の西暦になり、今回は第37回になります。

毎年コーディネータとして中心になっていただく先生をお願いしておりますが、今年は2月の中旬に、土田先生に依頼をしました。ご存じのように土田先生は大変にお忙しい先生ですが、ぜひお願いしたいという申し出に対して、快く引き受けていただきました。今いろいろとお話がありまして、併設のドイツ社会史展の開催に当たりましては、藁谷理事、金子文化推進部長、また商学部の木村事務長にも大変ご助力いただきました。そして、ドイツ連邦共和国大使館主催という形で、いろいろな展示をすることになりました。今年はドイツ社会史展とあわせて産研フォーラムを開催しております。

この間、実は5月26日ですが、土田先生のお母様が103歳というご高齢で他界されました。土田先生はそのためにご郷里のほうへお戻りになる回数も多く、また夏に国際学会がありまして、韓国釜山のほうにもお出かけになった中で、社会史展のほうまで含めまして本当に細かな点までお気遣い、ご指導いただきまして今日に至っております。

今日持ってまいりましたが、これは土田先生がお書きになりました共著の書籍です。一緒に書かれた方が佐口先生で、土田先生が早稲田大学で教鞭をおとりになるまで社会保障の講座をご担当の先生でした。土田先生は佐口先生とご一緒にこのような本を書かれて、これは版を重ねて4版になります。土田先生は、社会保障の分野で学部と大学院で講義並びに演習をご担当されており、ドイツの医療保険の領域で博士学位をお取りになりました。それは単独の著書として出版されております。文献の中でも紹介されていますが、厚生労働省の『厚生省五十年史』があります。土田先生のお話ですと、『五十年史』をお書きになってから厚生省のいろいろなお仕事にかかわられたということで、周知のように、土田先生は、わが国の厚生労働行政の中で指導的な役割を長く果たしてこ

られました。新聞でも広く報道されましたが、中医協の会長も務められました。これは、大学にとっても大変名誉なことだったと考えます。

同時に私は今日もう一冊の本を持ってきました。ベテランのOBの方はお名前をよくご存じと思いますが、土田先生と同様に早稲田大学の政治経済学部で学ばれ、政治経済学部の先生になられた平田富太郎先生の御著書です。平田先生も国の労働行政、社会保障行政で指導的役割を果たされ、いろいろな審議会では会長をされたり、非常にご活躍になられた方です。これは土田先生から伺いましたが、ご同郷だそうで、土田先生は郷里にお戻りになると、自分のおうちのお墓参りだけではなく、平田先生のお墓にもお線香をあげてくるそうです。なかなかできないことではないかと私は思います。

土田先生の学識、実力は本当に大変なものです。今申し上げましたような先生のお人柄を私どもは日頃から非常に尊敬しておりまして、今日このような形で、これだけ各方面で活躍される多忙なメンバーの方に集まっていただけのも、やはり土田先生のお人柄という面が非常に大きいのではないかと私は感じています。

夕方までになりますが、どうぞごゆっくり聞いていただければと思います。どうもありがとうございました。（拍手）